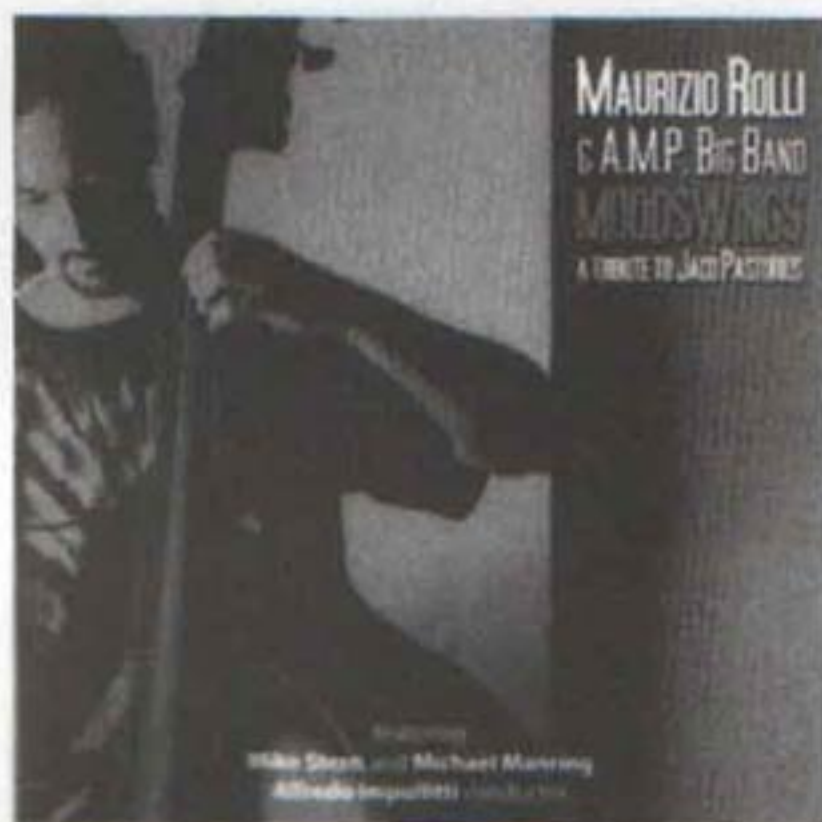


ジャコ・パストリアスに捧ぐ〜ムード・スイングス/マウリッツォ・ローリ



①フナー・ブーム ②スリー・ビューズ・オブ・ア・シー・クレット ③ティーン・タウン ④グッドバイ・ボーク・ハイ・ハット ⑤フナー ⑥キング・アンド・ア・ブレアー ⑦ハボナ ⑧コンティニウム ⑨インビテーション
⑩ポートレート・オブ・ルーシー ⑪D・ジャコ(ジャコ、ジャンゴ、ジョン・ルイスに捧ぐ)

●マウリッツォ・ローリ(alt. vo) ジャンルカ・エスポシット(ss) アチレ・スッキー(as, bd) マルコ・コラソニーニ(as) マックス・ロナタ(ss) ビエロ・デル・モナチエ(ss) マッシモ・ムッシー(ss) アンジェロ・トラブッコ(b, backing vo) アンジェロ・カネリ(④)(⑥)(p), クラウディオ・フィリップピニ(⑤)(p) マイク・スターン, ジャンカルロ・アルファニ(g) マイケル・マンリング(b) ニコラ・アンジェッリ(ss), パオロ・コルシ(⑦)(⑧)(ds), ダニー・マンゾ(⑩)(⑪)(ds) ジョバンニ・インバラト(per, vo) ディアナ・トルト(backing vo) シモナ・カボズッコ, ルシア・ディ・グレゴリオ, エンリコ・メロッチ, マルセロ・マヌリ(backing vo) パオラ・グリアコ(spoken) ストリングス(アウグスト・アリンセゴ, パトリック・マーレー, ビエロ・ジョルジョ・トロイロ, ガイア・ルジー, ビエロ・モンテペロ, モレーナ・ディ・ゲンナロ) ジョバンニ・シアファリーニ, ハゼル・ゴダルド(vb) エンリコ・メロッチ(cele) 2003年作品

●ローピング・スピリッツ(Teen Town Club) RKCT-2500 (5)¥2,500 2月19日発売

今は「ジャコ・パストリアス」へのイタリアからの贈り物

ジャコへの深い敬愛と、プレイヤーたちの豊かな歌心、そして音楽的な冒険を辞さない編曲。このどのひとつが欠けても、このようなトリビュート作は生まれ得なかつたであろう。天才ベーシスト、ジャコ・パストリアスがその短い生涯を駆け抜けてから既に15年を数えるが、このアルバムはイタリアで活躍するベーシストで教授でもあるマウリッツォ・ローリが、ビッグ・バンドというジャコが憧れた編成を率いて臨んだものだ。しかも、この作品はジャコに関するアルバムを出していこうと設立されたティーン・タウン・クラブからの第一弾である。インディペンデント・レーベルの個別化もここまで進んだのか！ この作品の魅力は知的な編曲と、豊かなエモーションが美しいプロポーションで結合している点にあった。そしてそれが一色では終わらずに、様々な色彩で魅了してくるのだ。たとえば①ではローリのベースがジャコへの尊敬の念を歌うと、エレクトリックでマイケル・マンリングが登場して2ベースになる。その楽しい興奮にドラムスが加わり、スリリング、かつ色っぽい演奏が繰り広げられるのだ。②ではボイスで起用されたイタリアの女性シンガー、ディアナ・トルトが瑞々しく、コーラスが加わる終盤では広大な音楽の広がりをもつに至る。⑥でジャコに捧げた自作曲を弾くマイク・スターンに、弦を主体にした編成が加わり生む美と、すべてが有機的に機能してこの素晴らしさ。(中川ヨウ)